



堂上の白布を覆ふ上は、  
 中上は通ふに、  
 階上は、  
 向ふ方、  
 自全流を、  
 物と、  
 了、  
 生、  
 堂、  
 先生、  
 抗、  
 其上、  
 者、  
 在、  
 堂、  
 況、  
 名

堂上の白布を覆ふ上は、  
 中上は通ふに、  
 階上は、  
 向ふ方、  
 自全流を、  
 物と、  
 了、  
 生、  
 堂、  
 先生、  
 抗、  
 其上、  
 者、  
 在、  
 堂、  
 況、  
 名





一海掛と云ふは其地は東  
方陳可法と云ふは選海舟  
郭の親軍也と云ふは郭の親軍也  
運軍人 袁典と云ふは袁典  
あり行掛り上段方と云ふは  
ト云ふは  
等し湖と云ふは湖と云ふは湖  
と云ふは

知る事也と云ふは知る事也  
此は其の上段方と云ふは  
選海舟と云ふは選海舟  
と云ふは  
と云ふは  
と云ふは

海軍の事  
海軍の事  
海軍の事

海軍の事  
海軍の事  
海軍の事

南豫新報號外明治三十一年二月十三日  
明治三十年四月廿八日遞信省認可

## ●偽特使の來着●

盧溝捏造の毒筆を揮ひ撰擧區民を欺騙して自由黨が萬一の勝算を僥倖せしめんとする宇和島新聞は昨日來偽特使來宇の號外を發行して人心の動搖を企くんまことを期し今日の号外を以て山下龜三郎なる者を横濱より迎へ來り兒島辭退の特使などと大法螺を吹き飛ばし今山下は龜ヤンダ遙々當地に來りたるは自由黨が最後の究策とまで計畫したる魂膽よして其魂膽の筋合を發き出すハ余り氣の毒れ至りなれども斯る瞞着手段を以て撰擧權の神聖を汚瀆せんとするハ我々第六區民は黙止するを得ざるを以て之が事實を抽發しく其妄を辨す

山下龜三郎なるものハ元來今西林三郎との投機商業馬合にして山師的運動の相槌打ちなれ此度の競争にも幸ひ山龜が東京近邊に居るを以て此山龜を兒島君の偽特使に仕立て上り盧溝電報を往復して勿体らしく歡迎し甘く進歩派の運動の氣勢を挫かんとする拙策あり昨日山龜が吉田町に歸着したる際は自由黨支部の部長たる赤松の甲ヤン態々之を汽船に迎へ有無も云はさず我支部に速に歸り瞞着方法打合せをなす偽特使運動の手初めとして山龜を辻籠に昇り乗せ其郷里喜佐方に向はしめ同村の有様者を胡魔化さんとしたるも山龜が親父どのハ正直一轍人なれば偽特使の化けの皮を觀破し不義不道の舉動を惨々に譴責せられ勿体を粗ふて乗り來りたる辻籠を引さ上から日暮過し洗足のまゝ濡鼠となりて吉田支部へ逃げ歸りたる不体職は見るも中々氣の毒なりしが鉄面皮なる山龜は尙懲りもなく今朝三間地方をさして偽特使に乗り込み今林の運動を應援するの目的を以て種々の交渉を試みる類なれば同地方の選擧民諸氏に於て此の兒戲的偽特使に一杯を喰はざるゝなかき

發行兼編輯人

阪本 平八

印刷人

野田 教治郎

發行所

愛媛縣宇和島町合資  
本町百十八番戶會社

南豫新報社

南豫新報第二號外明治三十一年三月十四日  
明治三十年四月廿八日 遞信省認可

●自由派

今西の候補と取消す

自由黨の候補者今西林三郎氏を紛きもなき進歩主義者人あるとい豫ねて本紙の屢を報道せし如くなるが迂闊なる自由黨は容易に之を信せず尙ほ様々の辨解をなすとの笑止さよ本紙に己ひなく大隈伯の電報を公けにせし處流石の自由黨員も茲に至ては大に疑惑の念を起し種々取調の末愈よ**今西の進歩主義者**あると懽めたるに依り堀部彦次郎坂義三山村豊次郎等親族派以外の面々の大に激昂し斯くて我黨は全く最初今林を照會したる幹一郎、祐常等の兄弟の爲め測にられたるも同然なりと未派の面々迄も共々に憤激し爲めに多數の脱黨者とも出さん形勢とありしかは這は捨て置難き一大事なりと早速會議を開きて今西氏に迫り此際雖然「自由黨に入りて誠心誠意同黨の爲めに尽すへし」との**宣言書**を發せよとして最も同黨の爲め私益なる文句を羅列し一篇の案文を草して要求する所ありしが今西氏の元來自由黨には斷して入黨せず單に同黨を提携す」との條件にて候補を承諾したるものかれは今に至つて此くの如き宣言書を發する能はず若し強て之を要求せば**斷然候補と辭退**するの外なしとして頑として之に應せず此に於てか自由派の面々は案々相違し再び其辭句を修正して全く最初の精神とは異をりたる軟弱極る文案を造り特に昨十三日之宮の下迄今西氏を追つ掛け行き種々談判に及ひたれし氏は到底宣言書を發布する能はずとて斷々手として勿ね附けかば自由黨の面々も此に至て愈よ今西氏は**進歩主義者たることを確認**し斯くては折角我黨が骨折つて同人を選出するも家鴨の卵を字化すと同然勞して功なきのみならず第一世間の者笑ひとあるとなれば假令今回は反對派獨り舞臺となるも我黨の体面には代る難しとして昨夜來重なる面々處々密議を凝らせし末遂に**斷然今西氏の候補と取消す事に決し**本日午後を以て此旨今西氏に通牒したと云ふ此に至て**兒島君萬歳**と云ふべし右は最も確かなる筋より聞込みたれば不取敢号外として讀者に報す兒島君萬歳々々

發行兼編輯人

阪本 平八

印刷人野間 教治郎

發行所

愛媛縣宇和島町合資  
本町百十八番戶會社

南豫新報社



在子年过二月  
 初五日  
 初五日  
 初五日

初五日





武



知  
左  
右  
村  
方